「持続可能な地球環境」実現のための取り組み

佐藤　和哉（さとう　かずや）
丸紅株式会社　広報部企画課長

エネルギーの需給バランスの崩壊と地球温暖化という危機に対峙（たいじ）して、商社が行うべき取り組みとはどのようなものであろうか。化石燃料の回収率を上げたり、新しい油田、ガス田の開発といった、これまでの手法の延長線上にあるプロジェクトの推進は、いわば「内なるフロンティア」の開拓として重要であるが、それと並行して新エネルギーや代替エネルギーの開発といった「外なるフロンティア」の開拓も、また商社の大切な取り組みとなる。

バイオエタノール製造施設
（バイオエタノール・ジャパン・関西）

そのような中で、当社の取り組みについてまず最初に紹介したいのが、環境省の協力を得て取り組んでいるバイオエタノール・ジャパン・関西である。これは廃木材からエタノールを製造する施設で、「サステイナブルなエネルギー開発」という共通の目的の下で商社機能が発揮され、「メーカーが持つ技術」「企業が持つ資金」「学者が持つ知識」の産官学を結びつけて進めることができた成果の一つである。

出資企業は、当社を含む5社で施設の総工費40億円を民間と環境省で負担している。大阪府堺市のエコタウン内にある施設に、毎日20回ほどエタノールの原料となる廃木材が搬入される。これが12mm以下に粉砕され、分解、発酵、蒸留の工程を経てエタノールに変わる。

エタノールの原料となる廃木材の山
（バイオエタノール・ジャパン・関西）

初年度（2006年）の年間生産量は1,400kℓだが、今後は年間4,000kℓにまで設備増強される計画である。「都市にストックされた森林資源」とも言われ、日本の廃木材は年間500万トンにも及ぶ。それらの集荷や技術開発といった難問を一つ一つ乗り越えながら進めてきた「廃木材エタノール生産」の取り組みは、日本が環境分野、産業機械分野において世界をリードしていく大きな一歩になるものと自負している。

その他の当社の取り組みとしては、米国で本格的に事業参入した「木質バイオマス発電」がある。これは、廃木材や林地残材等の有機物をボイラーで燃焼させて利用する発電設備で、温室効果ガスの削減にも寄与する環境に優しい技術である。また当社の紙パルプ事業では、植林、パルプ・製紙から、紙の販売、回収・リサイクルに至る「バリューチェーン」の展開を通じて、循環型社会の実現に貢献している。

世界にネットワークを張り巡らせた商社ならではのグローバルな視点と、そこから創造されるさまざまな取り組みを通じて、当社は「持続可能な地球環境」の実現に向けた努力を続けているのである。